



長 建 介
樋 口

学園だより



学校法人 群馬パース学園

群馬パース大学

■ 高崎キャンパス
〒370-0044
群馬県高崎市岩押町5-4
TEL 027-310-7766(代)
FAX 027-310-7767

■ 高山キャンパス
〒377-0702
吾妻郡高山村中山6859-251
TEL 0279-63-3366(代)
FAX 0279-63-3477

ほたか保健福祉専門学校

〒377-0201
群馬県波川市上白井2564-6
TEL 0279-53-4800(代)
FAX 0279-53-4991

私の教育の原点

新年明けましておめでとうございます。

平成9年、学校法人群馬パース学園は「一人は生命ある限り希望がある」を基本理念とする私の信念によって設立致しました。そして、

平成18年4月、学校法人群馬パース学園は、学校法人ほたか会を吸収合併し、群馬パース福祉専門学校(平成19年4月校名変更予定)を加えて新年を迎えることができました。

これも一重に大学と専門学校の卒業生・在校生及び役員と教職員のご協力のお陰です。

私も60歳の節目に「教育の原点」をまとめあげることができました。

私の小学校時代は、1952年小学校一年生で盲腸炎、小学校二年生で腸捻転、四年生で真空切り(鎌イタチ)。病気で始まり怪めで終わった。

この年の夏、母が48歳で死んだ。肝硬変であったと思われる。これらの出来事は、1961年国民皆保険の施行前であった。当時は、日本全体が終戦後の窮乏していた時代である。その中で医療費がどれ程の負担であったか。この医療費負担が、いかに家族に重くのしかかり一段と生活困窮を招いたか想像するに難くない。

今になって思うが、母は何故、病院に入院をしなかったのか。その理由の一つは、私に掛かった入院費と治療費の支払いのため、母を入院させず在宅での医療を実施したのではないか。もう一つは、母自身が在宅治療を望んだのではないか。

そして、在宅での母の三日三晩の痛みと苦しみの姿は、今でも私の脳裏から消え去ることはない。ところが、息絶える母の最期の瞬間は、穏やかな顔とやさしい声に戻り、父の手を握り感謝の言葉を残し、住み慣れた家で眼を閉じた。この三日三晩の治療費は、とてつもない金額であった。その証拠に兄弟3人の教育は中学卒業で終了し治療費用の支払いは、その後五年間を要した。

私たちが治療を必要とした者にとって国民皆保険の導入の前後では、「地獄と天国」の差である。今日においても国民皆保険制度が、いかに優れた制度であるかを国民は認識すべきであろう。

母の弔問に訪れた私の恩師狩野ヤエ先生は「これからも」一家の生活は大変で厳しいと思います。でも建介君には、将来進学をお考えください。それだけの能力がある。彼を育てたいと思っています。私から本人にも今以上に努力するよう指導しますので宜しくお願います。」と話された。「母の死」とこの貧しさの中で取って代わって教育を受けることを薦められた狩野先生の「私への思い」は何であったのか。

1964年4月、高等教育を受けられなかった長姉、長兄、次姉の強い支援と犠牲で、私は大学へ進学することが出来た。「恩師とは、兄弟とは、教育への情熱、そして

教育とは何か」1977年8月特別養護老人ホームの入園者の死に初めて直面した私に、尊敬する神戸照子先生がその時「死ねて良かったね」と言える看護をしてきたかしら」と言った。その言葉が私の心に響いた。「死ねて良かった」と言える看護とは何か。この言葉が私の福祉の原点となり課題となった。

そして、この「原点と課題」を戒めとともに示唆してくれたのが、二つの夢からのメッセージである。その夢の一つは、1980年2月厳冬、施設の職員に対する思い。夢の中で語ったその人が誰であったか定かではないが、それは「自分を捨て、自身を犠牲にし、相手を尊敬することで信頼される経営者になれる」と。二つ目の夢は1981年9月秋、それは熊に襲われそうになった私の前に亡き母が現れ「お前を助けるからその代わりに常に謙虚になりなさい」との教えであり私にとって避言に思えた。

この二つの夢からの教えは、「真の愛」に気付き自己変革をすることであった。つまり、いくら自分だけが、一所懸命頑張る、努力してもそこに「愛」がなければ相手にその思いは伝わらない。「死ねて良かったね」と言える看護、「真の愛」に気付くこと。ここに「私の教育の原点」がある。

新しき年の始めに

群馬パース大学

学長 小林 功



何となく、

今年はいい事あるごとし。

元日の朝 晴れて風なし。

石川啄木

皆様、明けましておめでとうございませう。平成十九年の元旦は素晴らしい天候に恵まれ、新しい年を迎えることができました。

冒頭に挙げた啄木の短歌は、私が中学生の時に読んだことがあり、お正月になると、いつも思い出します。おそらくは、二十七歳の若さで、結核性腹膜炎により、この世を去った啄木晩年の作品ではなかったかと思えます。どんなに休んでも、新しい年を迎えると、何となく、今年はいい事がありそうだとあって欲しいと思うものであります。さて、群馬パース大学は四年制の医療系大学として、スタートして今年では三年目に入ります。

少子高齢化社会の到来により、医療系大学の任務はますます重要になってきました。そして、評価される大学になるためには、入学した学生諸君を、大切に育て、立派な医療・保健・福祉の将来の担

い手として、社会へ送りださなければなりません。

最近、樋口建介総長は、「私の教育の原点」をまとめ、私たちに示されました。総長にとって、人生の師ともいわれる故神戸照子先生の言葉「死ねてよかったね」と言える看護とは何か。そして二つの夢の啓示から、「真の愛」に気付く。この一文は私たち教職員の胸に重く迫るものがあります。こうした理念を持つ経営者の中で、若い世代の教育に当たる私たちは、身の引き締まる思いがすると同時に、教育の場を提供して頂ける樋口イズムの一員に参加できることに、深い誇りを感じざるを得ないのであります。医学部を卒業後、医師として母校に四十年在籍した私にとっても、「私の教育の原点」にある言外の示唆を含めて、改めて教育理念の規範にしたいと思っております。

一方、近年の医療の現場にあっては、医療法等の改正が繰り返され、厳しい現状にあります。病院の生き残りがどの程度可能なのか、高齢化社会に対応した医療経済の基盤を揺るがすような話題も尽きません。

さらに今後、あらゆる分野において、国際化、グローバル化、インフォメーション化が波及しており、大学も生き残りをかけて競争の原理が導入されつつあります。IT化、国際化の時代にあつて、情報は直ちに世界を巡る時代でもあります。

群馬パース大学の特色は何か。総長の示された基本理念の下に、これから新しく創造して行く必要があります。本学は、自然環境に恵まれた高山キャンパスと都市型の高崎キャンパスとあり、時代に対応した学園作りに取り組みたいと思っております。私はかねてより、教育職とは、知識や技術を教える以外に、「若い世代に夢を持たせる仕事である」と思い続けて参りました。過去の歴史を辿っても、あるいは私自身にとっても、さまざまな試練がありました。たとえ、どんなに辛いことがあつても、私たち教職員ともども、夢を持って生きたいものであります。

近き将来の大学院設置へ向けての構想も、いよいよスケジュールに入つて参ります。時代の趨勢を見極めつつ、着実に、そして前向きに、大学の改革、発展を目指す一年であつて欲しいものであります。どうぞ皆様、本年もよろしく。そして頑張りましょう！

新春を迎えて

ほか保健福祉専門学校

校長 山田 完治



秀峰赤城山を仰ぎみる利根川の清流の畔に地歩を固め、十四年余の歴史を刻んだ本校は、今年も穏やかな新春を迎えました。

本校は、群馬パース学園の一員として、本年4月より「群馬パース福祉専門学校」と改称して、心機一転した再出発を目指すべき年を迎えることになりました。

わが国は、少子高齢化時代を迎え、六十五歳以上の高齢者が、全人口の二割を超えたとの報道がなされております。高齢者が増加する中で、要介護者増加に伴う介護職員

の必要性が予測されます。そうした状況の中で、厚生労働省の介護業務従事者養成施策も種々の検討がなされ、介護福祉士のレベル向上を図るために、養成校卒業者にも国家試験を課す方向での検討や、教育課程の見直し等も進行中でありませう。本校としても、時代の変化に対応できる体制を整備し、豊かな人間性と確かな知識や技術を兼ね備えた人材育成を実現すべく、職員一同、一丸となつて指導力の向上に努めてまいり所存であります。本年も、関係各位のご支援とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



新しい年を迎えて

看護学科

学科長 牛込三和子



群馬バス大学で仕事を始めて九ヶ月過ぎました。看護の知識、仕事の魅力をどのようにしたら学生に伝えられるか日々奮闘しています。最近、学生の眼差しに、4月当初にはみえなかった真剣さを感じます。専門科目の講義、病院での基礎看護学実習での看護体験と学習がすすみ、看護のことを理解してきたのではと実感します。来年度、三年次後期から臨地実習に入ります。実習は、これまでに学習した知識、技術を総動員し、さらに学習し、知識と技術を確実なものにするという体験です。これらの学習が充実すすむよう、教育体制、教育環境をより充実したものと努力しています。

短期大学三年生は実習をすべて終了し国家試験にむけて全力を注いでいます。悔いのない結果を、と教員一同、特別講義や個別学習支援に全力投球でとり組んでいます。4月、全員が春を迎えられることを願っています。

充実の年に向けて

理学療法学科

学科長 松澤 正



新年を迎えるに当たったの抱負を示します。今年は、3月に短期大学の最後の卒業生を出すことになりませんが、理学療法学科は、第三期生までとなります。今年こそは、理学療法士国家試験に全員合格を目指して、教員が一丸となって取り組んでいます。特に、学科教員全員が国試問題解説セミナーを担当したり、国試特別講義を外部講師による受験テクニックと重点問題の解説をしたり、模擬テストを9回実施したりしています。また、学生自身もグループ学習に熱心に取り組んでいます。しかし、全員合格ということ、難しいことではありますが、それに向かって挑戦しているのが現状です。また、今年4月には、大学の教員が全員揃います。このことよって、大学の教育と研究体制が整うことになり、本学の目標である教育と研究と臨床を統合した特色のある大学習作を目指して努力して行く年になります。

年頭にあたって

地域看護学専攻科

専攻科長 梅林 奎子



新年おめでとうございます。専攻科が発足して七年目を迎えることになりました。修了生は145名で、各々の場で活躍しており心強く思っております。

教育にあたり、学生、教員が「共に学び、育つ」ことを基本とし、教員が一丸となって教育にあたること、常に「教育とは何か」を考え、「研鑽する」ことを心がけ、「研究即教育即実践」を理想とし、それを目指す努力をすることを方針としてきました。また、学生が問題意識をもち、自ら学び、保健師に必要な力をつけていくための支援が、我々の役割と考えています。更に専門職である以前に「良識のある人」、「教養人」として日々の学生生活の中で、互いに切磋琢磨していく環境づくりも大切と考え方を注いできました。

当科は19年度で最後となりますが、六年間構築してきたことの集大成となるよう頑張っていく所存です。ご支援をお願いいたします。

新たな春を迎えて

高崎キャンパス

キャンパス長 内藤 和美



二期生が一年を締めくくって高山キャンパスへ巣立ち、新たに三期生を迎える年が明けました。二期生は、専門教育に堪える基礎能力と学習習慣を備えて高山キャンパスに巣立たねばなりません。高等学校卒業生の半数が大学に進学するようになった現在、学生は、基礎学力の面でも学習習慣の面でも、必ずしも大学の専門教育にすんなり乗れる者ばかりではなく、本学も例外ではありません。高崎キャンパスの使命は、何より、学業姿勢・学習習慣をきちんと立ち上げて高山へ進級させることですが、総論・一般論ではなく、学生への個別対応でこの仕上げに取組みます。

二カ年を経て、高崎キャンパスの教職員もさまざまな経験を蓄積してきました。スポーツや課外活動がし難いなどキャンパスとしての構造的な困難もありますが、それら経験を全て活かして三期生を迎える所存です。

大学院設置に向けて

大学院構想プロジェクトチーム

責任者 大野 絢子



大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目的とする（学校教育法65条）とされています。

本大学も看護学、理学療法学の専門的能力を充分身につけた人材を育成するため、大学院設置が求められています。具体的には、①研究者の育成 ②教育者の育成 ③高度な実践能力の育成 ④国際保健活動に携わる人材の育成等が考えられています。

17年4月、開学と同時に大学院設置に向けての勉強会による全学的協議が開始されました。

18年度には全教員の業績報告、大学独自の教育助成制度による研究活動の推進、文部科学省科学研究費の申請（申請件数20件）、先行大学の見学、年二回の紀要の発行等研究活動の活性化を行ってきています。

19年1月、大学院設置の準備会が発足。21年4月開学に向けた活動を開始したところです。

謹賀新年

学校法人群馬パース学園

理事 永田 榮一



学校法人群馬パース学園の管理・運営に当たりまして、普段より多大なるご指導・ご助言を賜りまして厚く御礼申し上げます。

お陰様をもちまして、当法人も平成9年12月当時の文部大臣より学校法人としての認可を受けて以来、本年12月に十年を迎えようとしています。その間、平成10年4月に群馬パース学園看護短期大学(三年



平成19年以降大学全入の時代を迎え、大学間のサバイバル化が進むなか、学生募集にも創意工夫を凝らし、一方受験生のニーズに合った魅力ある大学の創造にも力を合わせ、教職員・役員・評議員一同心血を注いでまいります。今後共側面からのご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

制)、平成12年4月に保健師(一年課程)、平成13年4月に理学療法士を養成する三年制の群馬パース学園短期大学を設置。本年3月には看護学科・理学療法学科の最後の卒業生を社会に送り出すこととなります。

新たに、平成17年4月には、現短期大学を廃止して「群馬パース大学」を設置、本年4月には第三期生を迎えようとしています。併せて、大学附属研究所を設置して、大学教育の充実・研究活動の確立を図っているところでございます。更には、平成18年4月には、介護福祉士を養成している「学校法人ほたか会」との合併も実現し、従来から目標としていた、保健医療専門職並びに介護福祉士の育成を図りながら、地域社会に対し教育・研究・臨床の循環を通じ還元し、地域の人々に貢献していきたくと考えております。

理事・監事・評議員紹介

理事長 樋口 克子

理事 小林 功 (学長)

永田 榮一 (法人事務局長)

樋口奈津子 (歯科医師)

石井 満 (高崎経済大学教授)

石田 安利 (高崎市立看護専門学校)

監事 割田 良次 (前高山村長)

土田 喜八 (信用金庫非営利部長)

評議員 樋口 克子

小林 功

永田 榮一

松澤 正 (学科長)

牛込三和子 (学科長)

金谷 春代 (大学事務部長)

池田 豊 (卒業生)

武井 直樹 (卒業生)

井埜 利博 (医師)

大島 恵子 (薬局経営者)

奥田 佳朗 (前院長)

角田 登 (真珠会議員)

馬場 俊治 (福祉施設長)

樋口 朋幸 (三社経営者)

福吉 實 (弁護士)

「神戸記念館」オリフィン

学園創設にあたり、物心両面にわたって多大なご貢献をいただきました神戸照子先生が天逝され、早一年が経過いたしました。

そこで先生にまつわるたくさん写真、遺品を展示した「神戸記念館」を高山キャンパス敷地内にオープンいたしました。

そして去る11月29日に同記念館で、永くお世話になったごく内輪の方々にお集まりいただき、ささやかながら先生を偲ぶ会を開催し、それぞれの先生への思いを語っていただきました。ご来館をお待ちしております。



群馬パース学園

新任教職員の紹介



看護学科 助手 桐生 育恵

昨年の9月に地域看護学専攻科に配属となりました。人々が暮らし地域社会で、住民と共に考え、支援していくための技術や方法を、学生・諸先生方と共に学び深めていきたいと思えます。どうぞ宜しくお願いいたします。



公開講座

本学は、社会貢献の一環として、常に地域の人々のニーズを受け止めながら研究にあたり、その成果が社会に還元されることを願っております。

本年度も、公開講座として三つのテーマで開催いたしました。

理学療法学科

講師 岡崎 大資

今回の公開講座で私に与えていただきましたテーマは「介護者の健康づくり」でした。

講座ではまず、介護者の体の健康として、腰痛をテーマに説明しました。腰痛の発生原理、身体活



動における腰椎の重要性、日常生活面での腰痛予防などを紹介し、講座の最後には腰痛予防のための体操を受講者とともに実施しました。

つぎに、介護者の心と社会的健康として、防衛機制をテーマに説明しました。介護による疲労やストレスによって防衛機制が生じてしまう危険性と、それを解決するための具体的な心理学的介入方法を紹介しました。また、家庭という最小単位の社会で社会的な健康づくりが大切であることを強調しました。

つたない講演にも関わらず、ご参加いただいた方々にはとても熱心に受講していただきましたことを心から感謝いたします。

地域看護学専攻科

助教授 小林 亜由美

平成18年度から、介護保険が大きく変わりました。これまでの「要介護1」のうち状態の維持・改善の可能性の高い方（新区分では要支援2）と、「要支援1」(新区分では要支援1)の方を対象とした、新予防給付が創設されました。また、「自立」の中から要介護又は要支援状態になるおそれのある方を「特定高齢者」として区分し、生活機能低下の早期発見、早期対応のための施策等を展開する地域支援事



業が新たに設けられました。各市町村には地域包括支援センターが設置され、中立、公正な立場から、地域高齢者のさまざまな相談に対応しています。

新しい介護保険は、介護が必要にならないように、また介護が必要になっても重度にならないように「予防」することに重点を置き、高齢者の自立を支援します。適切なサービスを利用することにより、住み慣れた地域で尊厳ある豊かな老後を実現しましょう。

看護学科

教授 大野 絢子

今回は、私自身が父の闘病生活を支えて介護を経験し母を看取り、現在夫の介護を行っている経験か

ら話をした。

とかく介護をする側はやりすぎる傾向にあり、依存関係が生まれてしまう。本当の介護とは、病人本人が持っている力を最大限に発揮できる、活かせるような看取り方、お手伝いのことである。

また、家族介護を行う上では、適度なゆとりを持つことがなにより大切である。介護者は気負いすぎず、心身ともに余裕を持って介護にあたるのが大切である。ゆとりを持って対応していることで、病人の言葉や動作の中から本当の気持ちを察してあげることができるようになる。そうすることでお互いが、思いやりの気持ちを持つことができる。家族介護には、思いやりの気持ちが一番たいせつである。



公開講座を終えて

理学療法学科

助教授 浅田 春美



今年度の公開講座は、大学を飛び出し高山村教育委員会のお力添えのもと、地元いぶき会館で開催しました。「在宅介護を支えるもの・ひと・こころ」をテーマに大学各学科教員を講師とし、三回を隔週で行いました。

参加者は、村内の五十代から七十代の方が大半を占め、各日20名前後でした。在宅介護が話題であったためか女性の参加者が多く、現在介護に直面している方々からの活発なご意見も頂くことができました。

今後の課題としては、開催日程、テーマの検討が残されました。農繁期の開催のため参加しづらいとの意見、また健康法や介護保険の具体的な内容の希望があり、今後よりよい形で地域へ貢献できるように努力していきたいと思っております。



流星祭 (H18.11)



広場



流星祭を終えて

流星祭実行委員長
西山恭平

皆さん、今年の流星祭はどうでしたか？

僕としては、反省すべき点も多く残りましたが、なんとか成功したとっていいイベントになったと思います。

これも協力してくれた実行委員と学生会のみんな、軽音楽サークル・ダンスサークルの人たち、そして参加・来場してくださった皆様のおかげです。

本当にありがとうございました。

災害時生活体験キャンプ (H18.8)



ほたか保健福祉専門学校



球技大会 (H18.7)



オープンキャンパス (H18.8)



学園祭 (H18.10)

編集後記

今年の三箇日は穏やかな天気恵まれましたが、自然は正直で、授業が始まった1月9日の高山キャンパスは、一面の銀世界となりました。

遅まきながら到来した冬に負けないよう体調には十分ご留意ください。

皆様方にとって良き年でありますことをお祈りいたします。

〒377-0702
群馬県吾妻郡高山村中山6859-251
TEL 0279-63-3366(代)
FAX 0279-63-3477
URL <http://www.paz.ac.jp/>
E-mail paz@paz.ac.jp

卒業式のお知らせ

平成18年度の卒業式の日程が、下記のとおり決定しました。詳細は確定次第お知らせします。

記

■ 群馬パース学園短期大学

日時 平成19年3月8日(木) 10時30分より
場所 ホテルメトロポリタン高崎(高崎市八島町222)
TEL 027-325-3311

■ ほたか保健福祉専門学校

日時 平成19年3月7日(水) 10時より
場所 渋川市子持社会体育館(渋川市吹屋658-10)
TEL 0279-24-8148